



みゆきレター



冬来たりなば春遠からじ

卒業生の皆さん、卒業おめでとうござい
ます。大学院・専攻科を修了された皆さん、
修了おめでとうございます。教職員を代表
して心からお祝い申し上げます。また、今日
まで物心両面で支えてこられた保証人の皆
様におかれても喜びはひとしおとお喜び申
上げます。

さて、皆さんは2020年の4月に希望
に胸を膨らませて福山平成大学に入学しま
したが、在学した4年間は歴史に刻まれる
ような激動の4年間でもありました。いく
つか振り返ってみましょう。

第1は言うまでもなくコロナ・パンデミック
です。入学前年の12月に出現したコロナウ
イルスは瞬く間に全世界に広がり、世界中
で行動が抑制され、にぎやかであった町は死
んだようになりました。この頃は、ほとんどの
人々が出口の見えないトンネルの中にいる
ような気持だったのではないのでしょうか？

本学でも授業の開始を5月に延期し、殆
どの授業を遠隔授業に切り替え、登校を厳
しく制限し、大学祭等の諸行事も中止いた
しました。大学生活の醍醐味である仲間と
の交流も思うに任せなくなりました。その
結果、皆さんが入学前に期待したような大
学生活を送れず、時には失望し、焦りを感じ
たことも多かったかもしれません。しかしな
がら、皆さんはこうした困難に立ち向かい、
次第に遠隔授業にも慣れ、逆に遠隔授業な
らではの学習効果を実感したはずで、そ
して3年次からはコロナの制約は最小限と
し、4年次ではコロナ前の自由なキャンパス
がほぼ戻りました。海外交流も再開し、多く

の学生が海外研修に飛び立つただけでなく、
海外の大学生達を本学に招いて親密な交流
を図ることが出来ました。コロナ禍での4年
間はつらいこともありましたが、この環境で
あったからこそその学びや、困難を克服した時
の喜び等、多くの大切なことを学ぶことが
出来たと思います。「冬来たりなば春遠から
じ」、これはイギリスの詩人シェリーの詩の一
節です。どんな困難も永遠に続くことはあ
りません。めげない心で努力すれば必ず道は
開けるという体験は皆さんの強い支えにな
ることでしょう。

第2は紛争の激化と世界の分断です。皆
さんが2年生の2月にはロシアがウクライ
ナに侵攻し、4年生の10月にはガザとイスラ
エルの戦争が勃発し、今も毎日のように悲
惨な映像が流され続けています。世界の分
断と対立や民主主義の劣化が強く懸念され
ています。もはや「自由に学べる」ことの出来
る日本の幸せなどという傍観的な言
いは許されなかもしれません、同時代の
現実を目にしなから大学で学んだ皆さん
は、身に着けた知識・経験を社会に生かす責
務があることを肝に銘ずるべきだと思います。

第3は社会の変化が猛烈な速さで進んで
いることです。2013年にオックスフォード
大学のオズボーン教授等が、技術革新に
よって今後20年ほどの間に労働人口のほぼ
半分が消滅すると発表し衝撃を与えまし
た。この数字には異論も多いようですが、最
近のAIの驚くべき進歩を見れば、現在存
在している多くの仕事が消滅することと、

生涯学習やリスキリングが不可欠なことは
間違いないと思います。

第4に日本経済への見方が変わってきた
ことです。日本経済はバブル経済崩壊以来
低迷が続き「失われた30年」と呼ばれまし
た。この間賃金はほとんど上昇せず、
2000年に世界第2位であった一人当り
国民所得は昨年には34位にまで下がり、
日本企業の世界における存在感は大幅に低
下しました。しかしながら、長く続いたデフ
レ経済にもようやく光が見え始め、賃金上
昇など変化の兆しが表れています。先月
は、日本の株価が34年ぶりにバブル期の最高
値を更新しました。これが「失われた30年」
からの脱却に繋がるのかはまだ分かりませ
んが、皆さんが社会人として活躍するこれ
からの日本経済には期待が持てるのかもしれ
ません。

皆さんはこれから様々な予測のつかない
課題に直面することと思いますが、予測のつ
かない課題を解決するところにこそ働く喜
びがあるのです。激動の4年間で大学生と
して過ごした皆さんにはそれが必ずできる
はずで、「失われた30年」に続く活気ある
日本を作るのは皆さんです。本学での学び
を生かし、社会人としてさらに成長される
ことをお祈りします。

令和六年三月二十一日

福山平成大学

学長 富士彰夫



「実社会に羽ばたいていく皆さんへ」



本日の令和5年度福山平成大学学位記授与式にあたりご挨拶申し上げます。卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご臨席の保証人の皆様にも心よりお慶び申し上げます。また、ご多用中にも拘わらずご来臨を賜りましたご来賓の皆様にも厚く御礼申し上げます。

さて、本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、多くの尊い命が失われ、多くの地域に甚大な被害がもたらされました。つきましては、本日はお祝いの場ではございますが、この場をお借りして皆様と共に、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の方々に心よりお見舞いを申し上げます。現在も避難生活を余儀なくされている方々や、インフラ施設の復旧が待たれる地域に住む方々が多数おられ、被災地の一日も早い復旧と復興を願ってやみません。このような時にこそ私たちには、他者の置かれた状況を「想像する力」が何よりも必要であると考えます。卒業生・修了生の皆さんの中にも、被災された方々への支援の一助として、これまで募金活動に取り組まれた方や、今後のボランティア参加等を考えている方も多くいらっしゃると思います。是非、他者の置かれた状況を想像する気持ちを大切に、実社会に羽ばたいてください。

また、卒業生・修了生の皆さんは、実社会における模範として、これからも社会的責任を果たしていかなければなりません。卒業後も日常生活では様々な予測不可能な事案に遭遇することもありますが、それら事案に適切に対処し解決に繋げるためにも自身や他者の行動と結果について「想像する力」が不可欠であると言えます。これからの長い人生において、自分や大切な人たちが健やかで豊かな生活を送るために、私たち一人ひとりに何ができるのか社会的責任を念頭において真摯に考えていかなければなりません。

ところで、今申し上げた「想像する力」との関連として、皆さんが大学で培われてきた知識・技術、取得された資格等も、その「想像する力」をもつてはじめて社会の課題解決に繋げることができると考えます。ご承知のとおり、日本国内においては、生産年齢人口の減少問題と地域間格差の拡大、地域の弱体化等に起因する医療提供体制の確立問題、高齢化の進展と人生100年代の到来等による社会構造・産業構造の変化、気候変動がもたらす予想外の災害の発生など、様々な問題が山積しています。さらに、世界に目を向けると、国家・民族間の諸問題の解決に向けた取り組みや新たなパンデミックの到来への備えの他にも、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる「カーボンニュートラル社会」の実現をはじめとする持続可能な開発目標(SDGs)の達成が地球規模で求められています。明日より実社会に羽ばたいていく皆さんには、それらの問題を抱えている人々の状況についても最大限に想像力を働かせながら、知識・技術・資格を活かし、ローカルにもグローバルにも活躍していただくことを心より期待申し上げます。

加えて、本日でたく卒業の日を迎えられた皆さんへの激励として申し上げます。これは、「想像する力」に加えて、「志」も是非大切にしてください。アメリカの著名な心理学者であるウィリアム・ジェームズ氏の言葉が出典と言われる「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」というフレーズを耳にしたことがある人も多いと思います。また、明治期に外務大臣を務めた陸奥宗光氏の遺稿では「(坂本)龍馬云く、人苟(いやしく)も一個の志望を抱けば、常に之を進捗するの手段を図り」とあり、志を持つことの重要性が説かれています。卒業生・修了生の皆さんにおかれては、それぞれの目標の達成と輝かしい未

来の実現を志し、「揺るぎなく前進」されることを心より願っております。

そして福山平成大学の卒業生として、福山平成大学創設者の宮地茂先生が表明された「御幸五訓、すなわち、

- 一、真理を求め、道理の実践を志向する
- 一、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす
- 一、不屈の魂を養い、紐帯性を培う
- 一、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む
- 一、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む

という理念をこれからも胸に刻み、実社会に羽ばたいてください。本学在学中に得た恩師・学友との絆はこれからの人生において貴重な宝であり、同窓会を通じて交流を深めていただき、自らを発展させるための糧としてくださるようお願いいたします。そして、いつでも気軽にこのキャンパスに足を運び、恩師に元気な顔を見せていただければと思います。卒業生の皆さんのご活躍が、後輩諸君の一層の成長と学校法人福山大学の益々の発展に繋がるものと考えます。どうか皆さんには、令和6年度に開学30周年を迎える福山平成大学の卒業生としての誇りをもつて、社会を担う貴重な存在へと成長いただくことを心から期待申し上げます。

最後になりますが、これまで慈しみ育てていただいたご家族への感謝の気持ちを大切にしてください。さるようお願います。皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。お祝いと激励の気持ちを込めて、ご挨拶とさせていただきます。

令和六年三月二十一日

学校法人 福山大学

理事長 鈴木省三

門出を祝して卒業生に贈る言葉

目標を持って前進

経営学部長 川久保 和雄



みなさん、ご卒業おめでとうございませう。

みなさんはこれから社会の新しい一員として、大学4年間に身につけた力を活用し、活躍されるものと期待しています。ぜひ、さまざまな困難を切り開いて、自信を持って前進していただきたいと思います。

みなさんは今、新しいスタートラインにいます。これからの長い人生を送るにあたって、希望に夢をふくらませているのではないのでしょうか。人生のスタートラインに立つて重要なことは、まず将来の目標、計画を持つことです。10年後、20年後、30年後に、自分がどういう人間になりたいのか、どういう人間になるべきなのかを十分考えてください。目標が決まれば、その目標を達成するための計画を作って、将来の自分を目ざして勉強を続けてください。若いうちにどれだけ勉強したか、どれだけ努力したかによって、その後の人生が決まるといっても過言ではありません。

また、たくさん本を読みましよう。読書を習慣づけると、言うまでもなく新しい言葉や情報に出会い、視野が広がります。インターネットで得られる断片的な知識だけではなく、読書ははるかに多くの系統的な知識と考え方に触れることができます。読解力や論理的な思考力が身につくのはもちろん、人間性に奥行きを与えてくれます。吸収力が旺盛な若いうちにぜひ多くの本を読んでほしいと思います。

社会に出ると、仕事が忙しいので、とても読書する時間はないという人もいますが、細切れ時間(スキマ時間)を活用して読書時間を捻出する工夫をしてください。時間はその気になれば作るすることができます。本の選択に迷う場合は、まず書店に行って書棚を眺めてみましょう。今出版されている本の傾向がつかめることができ、興味のある本や自分が勉強しようとしている分野の本が見つかるでしょう。ぜひ読書習慣を身につけて、多くの本を読み、自分の目標に一步ずつでも近づける努力をしてほしいと思います。努力の積み重ねによって、みなさんが大きく成長されることを願ってやみません。

私たちはみなさんのことを、これから心から応援していきます。みなさんも母校である福山平成大学のことを時々思い出して、応援していただければ幸いです。最後にみなさんの今後のご健康、ご多幸を心から祈ります。がんばってください！

卒業生への祝辞

福祉健康学部長 古賀 一博



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの卒業を祝福するとともに、これまでの学びと成長に敬意を表します。また、本学での貴重な経験と努力は、皆さんの今後の人生において不可欠なものになると確信します。

ところで、皆さんが入学した年に私も本学に着任しましたので、いわば皆さんとは同じ時間と空間を本学とともに過ごしてきたことになりました。この4年間はまさにコロナウイルスとの戦いの4年間でした。私も大学教員として経験したことのない厳しい4年間でした。皆さんも、コロナ禍の中この4年間の学生生活は決して簡単なものではなかったでしょう。しかしながら、困難に立ち向かい、挫折を乗り越え、学び続ける姿勢を持ち続けたことは、皆さんの強さと成長を示しています。このことは、これからの人生において大きな自信となるでしょう。

また、この4年間を支えてくれた家族や友人たちにも感謝の気持ちをお忘れください。皆さんの卒業の背後には、絶え間ないサポートと励ましをくれる人々がいたからです。その人たちの存在なしに、今日の卒業はあり得ません。どうぞ彼らへの感謝の気持ちを忘れずにいてください。

今回の卒業式は、大学生生活のピリオドであると同時に、人生における新しい章のスタートでもあります。これからの不確実な時代を歩むにあたり、どうぞ自分自身の力を信じて、勇気を持って前進していただくでしょう。もちろん、成功は、筋縄ではいかないこともあるでしょう。しかし、学んだことを胸に刻み、自らの信念を貫き通すことで、目標へと進むことができるのです。

ただし、その際、決して自分のためだけでなく、周りの人々や公共の利益にも配慮する心を忘れないでください。誰かのために役立つこと、自分の能力や知識を分かち合うことは、喜びを増やすことにもつながるものです。社会への貢献や共に生きる喜びを感じながら、周りの人々や社会全体との絆を深めていただきたいと思います。

最後に、これからの素晴らしい未来に、皆さんの夢が叶い、目指す道の先には幸せと成功が満ち溢れ、人生の旅路が一層輝かしいものとなりますよう心からお祈りしております。

ご卒業おめでとうございませう

看護学部長 木宮 高代



晴れの門出を迎えられた看護学部看護学科第14期生の皆さん、保証人の皆様から心からお祝い申し上げます。未知の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大学生活では多くの困難があったことと思います。そのなかで、第14期生の皆さんの自己の感染予防対策・健康管理の徹底をしながら勉学に取り組む姿は、まさに看護専門職の姿を映していました。

現在の日本は世界に先駆け超高齢社会となり、多様化する保健・医療・福祉に対応できる看護専門職が求められています。そして、その活躍の場は拡大し、役割の推進などが行われています。本学看護学部の教育理念のもと、皆さんは看護専門職に必要な知識と技術の習得、そしてそれを常に継続し続ける自主的な学びを行ってきました。

今、ここに質の高い看護・保健医療を実践する看護専門職として、第一歩を踏み出すこととなります。初めの一步は小さいかも知れませんが、社会で仕事をしていく中で、本学での学びで身につけられたことを誇りに、情熱と努力で培った看護学の知識や看護技術を活かしてください。そして、地域における医療・保健そして福祉向上のために自分の力を信じ、未来の可能性に向け挑戦し続けてください。

社会人として生きていく中で様々な試練や困難にあたることと思います。そのような時には、講義や演習、グループワーク、実習などいつでも励まし慰め合った仲間がいること、私たち教員が応援していること、そして思い出せる共有できる大学がここにあることを思い出してください。これからは、自分自身で決めた道の中で、自他ともに認められる存在となり、それを維持していくために、これから生涯にわたって自分で学び、自分で解決していくという自己学習、自己研鑽が継続的に求められます。時には戸惑うこともあると思いますが、そんな時こそ丁寧に時間をかけて取り組むことが真の看護専門職です。社会人としての実生活もはじまります。他人に依存することなく、自分自身の考えに基づいて行動してもらいたいと思います。

さまざまみなさんとの関わりでは、自分の精神や感情を制御していくことも忘れてはなりません。常に患者さんの心に寄り添い、共感することを忘れないでください。何年かを経たぬうちに、臨床現場で活躍されている皆さんと出会うことを楽しみにしております。

助産学専攻科の卒業生の皆さん、大学院修士課程看護学研究科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これからは看護専門職として看護学教育の発展に寄与されることを期待するとともに、ご多幸をお祈りいたします。医療のスペシャリストは時代の技術の変遷が速く、少しでも勉強を怠ると取り残されてしまいます。ぜひ日々の変化に負けず、努力を毎日重ねて、社会の要望に応え世の中に貢献されることを期待しています。

最後に、みなさんの今後のご健康、ご多幸を心から祈ります。がんばってください！

四年間のメッセージ

経営学科 池田清弥



福山平成大学に入学し、あっという間に四年が経ちました。私はこの大学に通うことができ、本当に良かったと思っています。新型コロナウイルス感染症の影響で、入学時から多くのイベントが中止、授業もオンラインでの受講となり、最初は大学生活に不安がありました。ですが、同級生には同じ地域の出身者が多く、すぐに友人をつくることができ、親しみやすい先生も多く、様々な相談のついでに、結果的に充実した四年間を過ごすことができました。

学生生活で印象に残っているのは、オープンキャンパスでの学生スタッフと御幸祭での模擬店です。オープンキャンパスでは、大学生活について発表し、高校生や学生スタッフの仲間と楽しく会話することができました。四年生のときに、学生スタッフのメンバーで形成されたHKSというグループができ、さらに多くの仲間が増え、後輩もできました。その後輩に自分達が経験してきたことを引き継ぐことができたことも良かったです。

そして、四年次の御幸祭でHKSのメンバーで模擬店を出店しました。材料の仕入れ場所や販売数・販売金額・利益予測など、今まで大学で学んできたことを用いながら準備・当日の運営を行いました。このおかげで後輩との繋がりを育て、やっと大学生らしいことができたと思います。

学業に関しては、欠席・遅刻をせず、課題をしつかりやることを徹底しました。いつも周囲に合わせるのではなく、自分で考えて行動することを意識しました。この習慣を活かせることで、就職活動を早く終えることができ、卒業論文に集中できました。後輩の皆様には、自分で考え行動することを心掛けて、頑張ってもらいたいと思います。

大学での学びは、社会に出てからの基礎になると思っています。四月から社会人として気持ちを切り替えて一杯頑張っていきます。四年間ありがとうございました。

大学生生活の思い出

健康スポーツ科学科 井上玉稀



私は「養護教諭になる」という夢を実現するために大学に進学しました。この夢の実現のために積極的に行動し、多くの経験をすることができた4年間になったと思っています。

入学当初、新型コロナウイルスの影響で学校に行くことができず家でパソコンと向き合って勉強する毎日、想像とはかけ離れた大学生活のスタートに不安は募るばかりでした。早く学校に行って対面で授業を受けられるようになることを願いながら、必死にたくさんの課題に取り組みました。少しずつ対面授業が再開されていき学校に行けるようになってからはたくさんのことに挑戦しました。苦手意識のある人の前に立ち話をする人や行動することに慣れるため、学生リーダーに挑戦しました。学生リーダーとして活動した経験は教員採用試験の、特に人物試験で大きく活かすと思っています。

また、健康スポーツ科学科特有の臨海指導実践演習(遠泳)や野外実践演習(ウインタースポーツ)などに行くことができたことも貴重な経験となりました。自然の中で楽しむことも多くの学びを得ることができた実習でした。まだまだコロナ感染が心配される状況でしたが、感染対策に試行錯誤しながら実施に向けて計画してくださった先生方に感謝しています。

大学生活後半は採用試験に向けて必死に勉強をする日々でした。決して楽な道のりではありませんでしたが、自分が得てきた経験と、先生方や先輩、同じ教職を目指す仲間、家族などたくさんの人に支えられ乗り越えることができました。

私は4月から養護教諭として働きます。まだまだ未熟ではありますが、大学生活で得たものを自分の強みとしてこれからも一生懸命頑張っていこうと思います。4年間お世話になりました。ありがとうございました。

大学生生活を振り返って

福祉学科 後藤俊弥



四年前の春、福山平成大学に入学し、あっという間に月日が流れ、卒業を迎えることができました。新たな土地での生活に、不安や期待を抱える中で迎えた入学式。四年間を振り返ると多くの経験と思い出がよみがえってきます。

自身が努力したと思うことは、部活と勉強の両立です。部活は、幼い頃から続けている硬式テニス部に入学しました。しかし入学当初、新型コロナウイルスの影響で部活動の制限がかかったり、大会の中止など、思い描いていた通りの活動はできませんでした。しかし、そうした中でも部活の先輩や後輩と何ができるのか考えて、取り組むことができました。勉強面で努力したことは、「社会福祉士」と「介護福祉士」の2つの資格取得を目指したことです。1年次の夏休みから4年次の夏休みまで、ほぼすべての休暇期間に実習がありました。4年次の「社会福祉援助技術現場実習」では、出身県にある社会福祉協議会で実習を行いました。実習では、地元の高齢者が抱える困りごとや地域住民のより良い生活を支えるためには、どのような資源が必要かなどについて深く考え、実習指導者をはじめ職員の方に丁寧な助言や指導をいただきました。おかげで実りある実習になりました。

実習が終わってからは、「社会福祉士」と「介護福祉士」の国家試験勉強に本格的に取り組みました。毎月行われる模擬試験で自分の力を確認し、仲間と切磋琢磨しながら勉強を続けました。国家試験を通じて、友人と深い人間関係も築くことができました。

最後になりますが、ここまで支えてくれた先生方や家族、友人に感謝の気持ちでいっぱいです。この4年間の経験を糧に、利用者や仲間から信頼してもらえる社会福祉専門職としてスタートを切りたいと考えています。

大学生生活を振り返って

看護学科 富永南央斗



福山平成大学に入学して、あっという間に四年が過ぎ卒業を迎えることになりました。4年間の大学生活を振り返ってみると、看護師になるために必要なことを学び、また人として成長できた時間でした。

入学した時は学業を第一優先としつつ、アルバイトやトレーニングなどメリハリを持って楽しみながら大学生活を送っていました。一年次の初めから新型コロナウイルス感染症の拡大により、パソコンを使用した遠隔授業を受けることになりました。慣れない授業や新しい土地での一人暮らしなどから不安もあったのですが、大学祭の代わりに開催されたハイブリッド体育祭では、看護学科が一致団結して総合優勝を果たしたことがとても良い思い出として残っています。

二年次では遠隔で基礎看護学実習を行いました。患者さんとのコミュニケーションや看護介入ができないなどの制限がある中で、疾患の基礎やグループワークでの密な意見交換など有意義な実習になりました。三年次後期からは、半年の臨時実習が始まり、臨床で学ぶことができるという意気込みと同時に患者さんを受け持たせていただく責任感や不安を感じていました。その時に、実習指導者さんや先生方のご指導や、グループメンバーに支えられて乗り越えることができました。

今後は地元の病院で救急医療に携わることを目標に、日々精進していきたいと思っています。

最後になりますが、これまで支えて下さった先生方、家族、友人をはじめとした全ての皆様に感謝を申し上げます。四年間ありがとうございました。

大学生生活を振り返って

こども学科 三好彩奈



4年前の春、福山平成大学に入学しました。当時、コロナ禍という大変な時期で、私達は大学の入学式という経験がありません。この度、卒業式を行える事に、感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍のなかスタートした大学生活はオンライン授業から始まり、友達ができるのが、授業の課題提出はこれで良いのかなど不安なスタートとなりました。しかし、温かい先生方のご指導とサポートのおかげで、心配も無用でした。大学生活では、1、2年は1限から5限まで授業があったことや、3、4年では実習や就活と忙しい大学生活でしたが、不安なことや困ったことも友人に勇気を出して聞くと、優しく接してくれ、助け合いの大切さを強く感じました。友人達に恵まれ、先生も良い距離感で接して下さり、こども学科で本当に良かったと改めて思っています。

そして、私が大学生活で最も思い出に残っている1つとして、中学生から続けてきた陸上競技をやりたい中、怪我に悩まされ、無記録で終わりました。長距離選手として陸上部に転向しました。血の滲むような練習も沢山したことで、記録が伸び、大会で入賞・優勝等することができました。陸上部では、2年の秋からキャプテンとして4年生の秋までやりとげました。これも、監督のサポートや部の仲間の協力のおかげです。キャプテンを務めて、その人の立場になって言葉掛けをすることを意識したことで、その人の立場に実際にたってみないと見えないことが沢山あるなど改めて気づきました。

これらの経験は将来、幼稚園の先生になる身として、とても役立つ経験になると思います。これからもこの凝縮した4年間の経験を忘れず、日々精進していきたいと考えています。

大学生生活を振り返って 四年間のメッセージ





令和5年度 卒業生・修了者数

学部	学科	卒業生数
経営学部	経営学科	38名
福祉健康科学部	福祉学科	19名
	こども学科	48名
	健康スポーツ科学科	96名
看護学部	看護学科	69名
計		270名

研究科	専攻	修了者数
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	3名
看護学研究科	看護学専攻	2名
計		5名

専攻科	修了者数
助産学専攻科	9名

合計	284名
----	------



令和5年度 学生表彰者一覧

このたび、「学生表彰」として学長賞に次の5名の学生が選ばれ、令和5年度学位記授与式において、表彰されました。

学長賞は「学業部門」において、特に優秀な成績を修めた学生に授与されるものです。

学長賞

経営学科 川原 桃佳

福祉学科 青掛 未奈

こども学科 佐藤 英奈

健康スポーツ科学科 矢野 裕佳

看護学科 富永 南央斗

編集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発行 福山平成大学

発行日 2024年3月21日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001 (代表) FAX 084-972-7771 <https://www.heisei-u.ac.jp/>